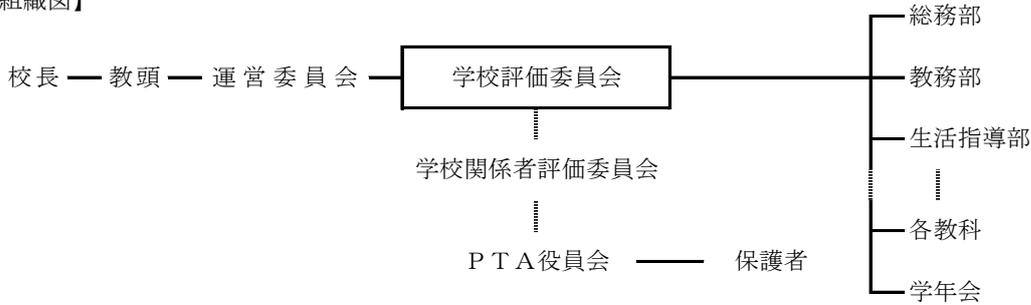


令和3年度学校評価等報告

(1) 学校評価のための組織

【組織図】



(2) 学校評価の年間計画

4月	本年度の学校評価についての検討（重点目標、具体的目標、留意事項等）
5月	PTA役員会にて本年度の学校評価について報告 学校評議員会にて本年度の学校評価について報告
7月	ホームページに本年度の学校評価を掲載
10月	中間評価を実施（前期の取組についての検証、改善点の洗い出し）
1月	本年度の評価のまとめの作成と次年度への課題整理
2月	本年度の評価のまとめと次年度への課題を職員会議で確認 品年度の評価のまとめと次年度への課題をPTA役員会にて報告 本年度の評価のまとめについて学校評議員会で報告、意見聴取
3月	本年度の学校評価（最終報告）のホームページ掲載等による情報発信 次年度の学校評価についての検討（重点目標、具体的方策、留意事項）

(3) 本年度の学校評価

本年度の重点目標	児童生徒の発達段階及び障害特性に応じた、きめ細やかな教育活動をより充実する。また、保護者及び地域への情報発信を積極的に行う。 ・ 保護者及び地域のニーズを踏まえた積極的な情報発信 ・ キャリア教育の観点をもち、高等部卒業後の夢や目標に向かって主体的に取り組むことができる教育課程の検証と実践 ・ 校内及び地域における特別支援教育を推進していくための教員の資質及び専門性の向上		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
小学部	学習環境の整備	障害の特性や認知スタイルの傾向に応じた学習環境の整備	会議や授業の準備を効率的に行うことで生み出した時間を有効活用し、授業研究や子どものことを話し合う時間を設ける。
	子どもの人間性の育成につながる学習方法の整備	子どもと教師の関わりとICTの組み合わせによる新しい学習方法の検討	体験的学習の充実とGIGAスクール構想とを組み合わせた学習方法を検討する。
	安心・安全な学校生活	事前にリスクを考えた学習環境の整備	計画段階からリスクを洗い出し、職員体制や指導方法、学習環境の設定を行う。
中学部	保護者のニーズを踏まえた情報発信	年齢や実態に合った性の理解と性教育の充実	外部講師を招いた出前講座を設定し、研修の機会を設ける。
	キャリア教育の推進	将来の生活に必要な力を身に付けることができる教育の実践	作業学習における指導目標段階表の有効活用を図る。

中学部	専門性の向上	自立活動における支援方法の充実	教材や支援の方法について、学び合いの場を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の授業の組み立て方など次年度に向けた授業体制の準備を進めることができた。 各学年の自立活動の授業の様子を動画に収め、教員間で共有した。ICT機器の活用については、生徒が自分で準備をしたり、楽しみながら意欲的に活動したりする姿を見ることができた。
	キャリア教育の推進	自らの将来を考え、具現化に向けての力の育成のための体制づくり	デュアル実習の実践と検証を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習の時間に、2年生の生徒が一般企業及び福祉事業所に向かい行う実習「デュアル実習」を昨年度より実施している。感染症予防対策のため11月から実施した。実習では、どんなことでもメモを取ることの大切さについて指導を受けることあり、その結果日常的にメモを取ることを意識できた生徒もいた。
	専門性の向上	卒業後、社会で必要とされる力の把握と、学校生活での教育実践 個に応じた指導の充実	企業及び福祉事業所から求められる力を校内に周知する。 障害特性に応じた指導を行うことで、一人一人の力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> 企業や福祉事業所からは、働く上では規則正しい生活を送ることがとても大切であるとよく指導を受けた。職員に周知するとともに、進路懇談会で保護者の方にも伝えるようにしたところ、遅刻や欠席が減った生徒も多かった。 本校独自の「作業学習アセスメント」を行うことで、生徒の実態把握、課題を可視化することができ、授業や実習での実践に生かすことができた。 日常的に板書の代わりとして大型TVを活用している。図、動画も交えた提示が可能のため、生徒に伝えたいことを簡潔に視覚化でき、学習効果が高まった。また自立活動の個別課題でタブレットを使用し、落ち着いて学習できた生徒もいた。
高等部	地域への情報発信	地域と共に生きる人材の育成	つながりをもった地域資源との交流を継続し、深める。	<ul style="list-style-type: none"> 農福連携事業として、外部講師を招いて農業基礎の講義や農作業体験を行った。生徒の進路選択の参考となるよい機会となった。 大府市政50周年記念のイラスト募集に応募し入選した。マスコミ取材も受け、多くの人に本校の活動を知ってもらうことができた。また、外部講師に「製造業における働くやりがい」をリモートで講義いただき、生徒の就労への意識向上につながることができた。
	保護者のニーズを踏まえたPTA活動と情報発信	保護者のニーズを踏まえたPTA事業の充実と関連する情報の発信	アンケート等で保護者のニーズを把握し、感染症対策を考慮した上で、PTAと連携して事業を実施する。 ホームページやメール配信等にて事業に関する情報発信を積極的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> PTA事業等へのアンケートを実施することで、保護者のニーズを把握し、PTA便りのレイアウトの見直しや男児女児別座談会等PTA事業の実施に生かすことができた。教務部や保健体育部等の校務分掌やPTA役員と連携して綿密に準備をすることで、男児女児別座談会やPTAバザーを円滑に実施し、概ね参加者のニーズにこたえることができた。 PTA事業の案内配布とともにメール配信で参加を呼び掛けることで、前年度より多くの保護者が参加することができた。
教務	教育課程	キャリア教育の視点を踏まえた教育課程の検討	教科別の指導科目において、学習指導年間計画と学習指導要領をもとに、段階ごと（小から高までの7段階）の内容や目的を整理し、モデル案を検討する	<ul style="list-style-type: none"> 本校の学習指導年間計画において、不足している部分について補うための単元や題材を検討した内容を盛り込んだ12年間のモデル案を作成することができた。 小学部では、キャリア教育の視点に立ち、三つの項目（移動、金銭、役割）の指導段階表を作成した。校外学習のねらいや目的地を整理することができた。中学部では、卒業後の姿について職員間で意見交換したり、作業学習評価表から事例検討を行ったりすることで、生徒の姿をより正確にとらえられるようになった。高等部では実習で得た課題を基に、就労アセスメントの改善、教科別指導との関連付けについて一覧にして、教科別指導に活用できるよう資料を作成することができた。
	ICT教育推進 情報提供	ICTを使用した授業づくりの推進と内容の充実 多様な情報発信	ICT機器を適切に管理・運営し、授業等で使用しやすい環境を整備する。 アプリやメールを利用し、学校の様子を周知する。	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動に必要なアプリをインストールし、各部ごとに使用を開始した。授業で活用する場面が徐々に増えてきたが、機器の破損が多く、丁寧に扱っていくことに課題が見られた。 研修以降、アニメーションの使い方や画像編集のやり方について質問を受けることが増えた。教員1人1人の意識の変化を感じることができ、ICT活用力の基礎固めをすることができた。 新型コロナ関連の文書等、緊急性があるものを早急にウェブ上に掲載し、保護者に情報を伝えることができた。また、相談支援部と連携して自立活動だよりを隔月で掲載することができた。
教育情報				

研修	校内研究 校内研究の充実	キャリア教育につながる支援の情報発信をする。 他部の実践を伝え、情報共有する。	<ul style="list-style-type: none"> 教務部、進路指導部と連携することで、デュアル実習等から得た社会的ニーズや卒業後の社会生活を意識した必要な力について情報を得て、キャリア教育に繋がる指導内容の検討に生かすことができた。 部の研究や教科会でまとめている内容や状況、資料の場所を研究毎に校内連絡で伝えることで、情報を共有することができた。また、代表者で集まって情報交換をしたりすることで、12年間の繋がりのある指導を目指し、部の研究やモデル案の検討に生かすことができた。
生活指導	安全指導 防災計画、防災訓練の充実	地震、火災を想定した避難訓練や引き渡し訓練を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時における、本部立ち上げから避難までのマニュアルの見直しを行った。見直すことで、本部からの伝達がスムーズになり、迅速な避難ができた。 引き渡し訓練は、実施方法を変更して行ったが、予定時間内にほぼ全ての児童生徒の引き渡しが完了した。保護者アンケートより、帰りに車が渋滞するとのこと指摘があった。児童生徒引き渡し後、駐車場から出るまでの誘導に課題が残った。
進路指導	情報提供 自立と社会参加を目指すために必要な情報の発信	進路に関する情報をまとめた冊子を作成し、活用方法を周知することで進路情報の発信をニーズに合わせて提供する。	<ul style="list-style-type: none"> 本年度も進路説明会前にアンケートをとり、各部の保護者のニーズに合わせた内容を取り入れながら実施できた。また、説明会の中で外部講師を招いて話を聞く機会を設けることができた。 本年度は、高等部実習説明会や高等部進路説明会を動画視聴で行えるようにした。その中で、実習に関する情報をまとめた冊子を使用して実施することができた。 職員の研修関係では、研修部の協力のもと、夏季休業中に施設見学を実施した。卒業後の生活をテーマに「労働」、「暮らし」を意識した内容で実施し、職員のニーズに合わせた事業所・グループホーム見学をすることができ、児童・生徒たちの卒業後の生活をイメージできる進路情報の発信をすることができた。
保健体育	食育の推進 児童生徒の健康教育の推進	食に関する指導の全体計画を職員に周知し、食育の推進を図る。 給食だよりの充実による情報提供を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 食に関する全体計画を配布し、年計に（食）印を記入する周知を図ったことで、食育に関する単元・内容を年計に組み入れてもらうことができ、全体計画改正の資料として多く拾い出すことができた。 全体計画が3部合同で項目のみになり、参考にしづらいという課題が残った。 生徒の活動に保護者も参加できるようにしたところ、みそ汁選手権では保護者からも多数の応募があり、学校の食育活動に関心をもってもらうことができた。
相談支援	校内支援 地域支援 自立活動	教員の資質及び専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関する研修会を実施する。 自立活動だよりを定期的にホームページに掲載し、情報を発信する。 校内外の研修の実施方法をもとに感染対策を行い実施することができた。 地域の職員と本校職員が共に参加できる外部講師による研修会と教材教具展の見学を実施した。多くの参加者から研修へのニーズが高いことが分かった。校内においては外部講師と本校職員が講師となる選択研修を実施できた。関心をもって参加する職員が増えた。 自立活動だよりをホームページに掲載し、相談や研修で紹介することで、地域の教職員や他の特別支援学校職員に活用していただくことができた。
総合評価			<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で12年間を見据えたキャリア教育について、校内研究を進めながら実践を行った。部の取組が他部への理解につながり、連続した教育活動へのモデル案を作成できた。 感染症対策による活動の制限はあったが、大府もちのき版アセスメントや作業能力アセスメントなどから児童生徒の実態把握や課題を可視化することで児童生徒の発達段階及び障害特性に応じたきめ細やかな教育を進めることができた。 昨年度からの課題であった積極的な情報発信及び進路情報については、保護者アンケート結果は、昨年と同様あまり変化がなく、今後の重点課題としてHPやメール配信、説明会等の持ち方など発信力の改善に努めたい。 勤務時間の適正化について、各校務分掌の年間の業務について表を作成し、必要性のないものの洗い出しを行った。また、委員会などの出席者を精選するとともに開催回数の見直しを図った。これらをもとに次年度業務内容の整理を進めていく。

(4) 経営上の問題点等

ア 小学部・中学部・高等部の一貫性のある教育課程の整備と開かれた学校作りの推進

イ 勤務時間の適正な管理を実施するとともに、長時間労働、業務等を改善し、質の高い教育を実現していくための具体的方策の推進

ウ 知的障害教育における専門性と組織力の向上

(5) 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の発達段階及び障害特性に応じたきめ細やかな教育 ・ 保護者アンケートの分析結果を踏まえた最終評価
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者アンケートから、昨年に比べて全体的に満足度は上昇傾向にあった。ただ、ホームページなどの発信と進路情報については、満足度は半数にとどまった。
今後の改善方法について	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの内容の充実と進路情報の提供の仕方等の改善を検討する。 ・ 教育活動の内容の発信に、より心がけて保護者への周知度を高める。
その他 (学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「高校生」に必要な支援とは何か、「高校生」と親との関係はどうあるのかや「自発性」との関連など保護者のニーズと学校とのずれの修正が必要。 ・ 発達段階に応じたニーズに対応することを様々な活動に取り組んでほしい。 ・ 卒業後に向けて生徒が体験的に学び意思決定するまでのプロセスを丁寧に行うためにも「デュアル実習」のような体験的な取り組みは早期から必要である。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成：学校評議員、PTA役員 ・ 時期：6月及び2月（評議員会、関係者評価委員会）